

年号：1792年

月日：5月21日

災害名：雲仙岳噴火・地震 (M6.4) [島原大変肥後迷惑] の概要

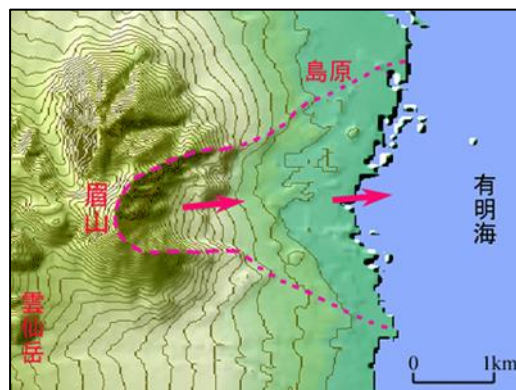
### 長崎県島原市、南島原市位置図



出典：国土地理院

### 【寛政大津波の概要】

- ・寛政4年（1792年）5月21日夜、島原半島の雲仙岳が噴火した。噴火後、普賢岳を震源にM6.4の地震が発生し、隣にある標高700メートルの眉山が崩壊した。
- ・崩壊時に約3億4,000万立方メートルに上る大量の土砂が島原城下を通過して有明海へと一気に流れ込み、大津波が発生。対岸の熊本（肥後）に大きな被害を与えたうえ、折り返した津波が再び島原を襲った。



▲雲仙岳・眉山の巨大崩壊位置図

出典：独立行政法人 防災科学技術研究所 HP

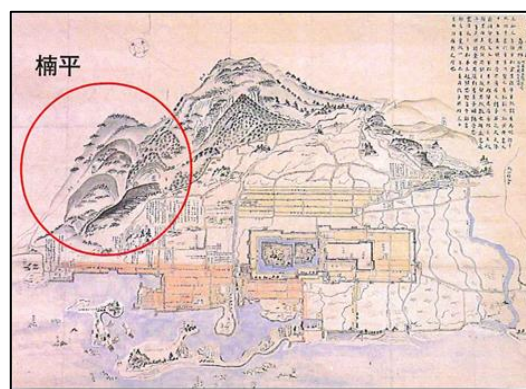
- ・津波は3回起こり、高さは島原で33～55m、天草で5～45mと想定され、島原半島では北部の山田村（吾妻町）から南部の南有馬村（南有馬町）までの地域が被害を受けた。
- ・津波による死者は有明海全域で約1万5千人に上る（うち、約3分の2が島原側）。
- ・島原半島の土石流被害が「島原大變」、熊本の津波被害が「肥後迷惑」と呼ばれる有史以来日本最大の火山災害となった。

### ■島原大變肥後迷惑の被害内容一覧

地域	死者	負傷者	死牛馬	田畑荒	流失船	流失家	流失・損害蔵
島原領	10,139人	601人	469頭	379町6反3畝21歩	582艘	3,347軒	308棟
天草	343人	x人	65頭	171町4反6畝	67艘	725軒	2棟
肥後3郡	4,653人	811人	131頭	2,130町9反5畝9歩	約1,000艘	2,252軒	x棟

出典：宇佐美龍夫 2003、『最新版日本被害地震総覧』、東京大学出版会

- ・この半年前から地震が発生しはじめ、小浜（半島西部）で山崩れにより死者2人の被害が出たほか、3ヶ月前には普賢岳付近で噴火、さらに2ヶ月前には穴迫谷から噴火があり、それらに伴い時々地震が発生した。
- ・1ヶ月前より地震が頻発しはじめ、死者2人や壊家などの被害がでていた。そこにM6.4の地震があり、眉山崩壊、大津波発生という大災害を引き起こした。
- ・1ヶ月前の寛政4年（1792年）4月29日深夜の地震直後には眉山の直下で、南北720m、東西1080m、滑落崖90mという「楠平の地すべり」が発生した。この他、地下水位の上昇、逆流など山体崩壊の前兆現象があったことが分かっている。



▲島原大變大地図(島原図書館松平文庫 蔵)

出典：国土交通省九州地方整備局  
雲仙復興事務所 HP



▲島原大変大地図の一部 眉山崩壊(島原図書館松平文庫 蔵)

出典：国土交通省九州地方整備局  
雲仙復興事務所 HP

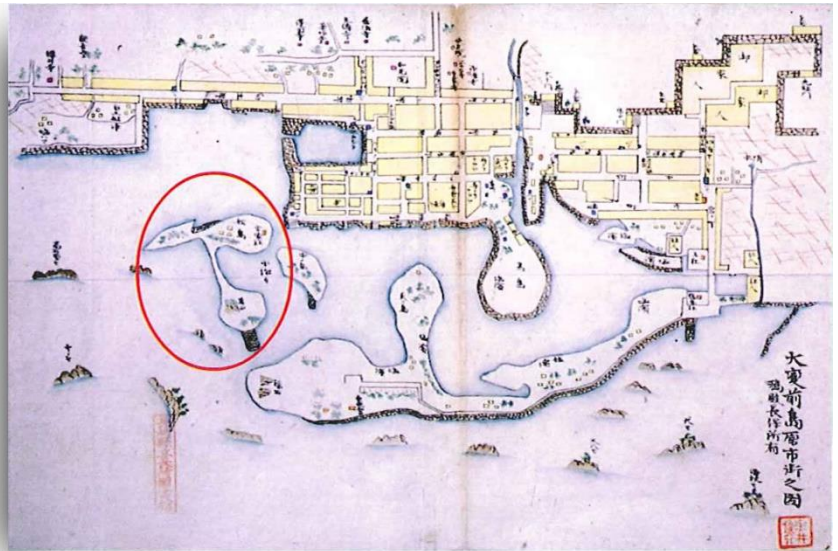




▲肥後国嶋原津波之絵図(熊本大学永青文庫 蔵)

出典：国土交通省九州地方整備局 雲仙復興事務所HP

- ・崩壊により眉山の東部は約1kmも海岸線が前へせり出した。
- ・松島と茸山の中の「小深り」は埋め立てられ、地続きになった。(右図の赤丸部分)。



▲大変前島原市街之図(金井俊行氏写図,長崎県立長崎図書館蔵)

出典：国土交通省九州地方整備局 雲仙復興事務所HP



▲上図より復元した町部海岸線

出典：国土交通省九州地方整備局 雲仙復興事務所HP

## 【島原藩主が建立した津波被災者の供養塔：南島原市西有家町・南有馬町】

- ・島原大變の翌年にあたる寛政 5 年（1793 年）、島原藩主の松平忠馮<sup>ただより</sup>は、死者が多く打ち上げられた海岸に、同形・同碑文の供養塔を 7 基建立し、流死した人の霊を弔った。
- ・供養塔の正面には「流死菩提供養塔」、右側面には「寛政四千年四月朔日高波」と刻まれ、現在も近隣住民による清掃・献花・供水などの供養が続けられている。



▲供養塔の位置（南島原市西有家町）



▲西有家町の供養塔

- ・南島原市西有家町の供養塔は、須川港近くの路地を入った民家の軒先に、弘法大師の祠と並んで建っている。
- ・近隣の 2 件が座元になり、毎年 4 月 1 日には智性院の僧を招いて、西向 3・4 班（戸数約 20 軒）の人々が集まり供養を行っている。



▲供養塔の位置（南島原市南有馬町）



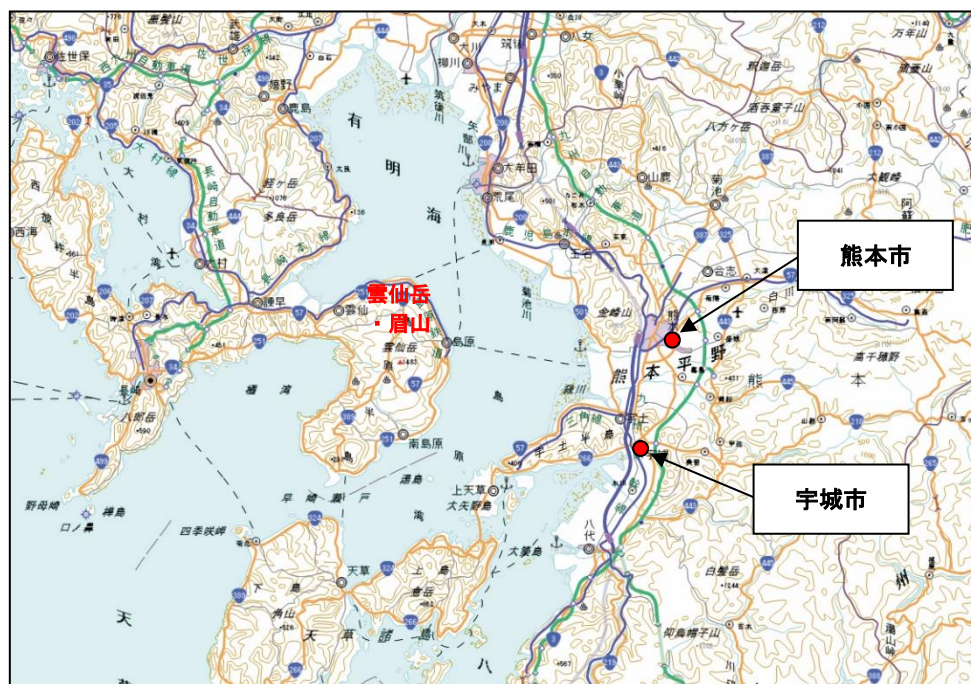
▲南有馬町の供養塔

- ・南島原市南有馬町の供養塔は、国道 251 号から約 20 メートル入った旧県道沿いにある。
- ・石碑の所在地区である町口集落が中心となり、昭和 46 年（1971 年）、南有馬・北有馬の 3 寺の僧を招いて「島原大變 180 回忌」の供養を行った。



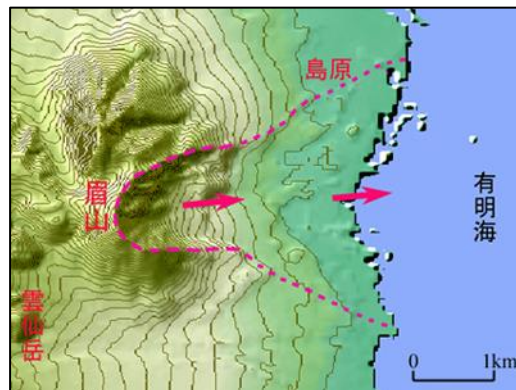
- 平成3年（1991年）4月1日には、町口・中組地区の有志が発起し、常光寺（南有馬町）願心寺（北有馬町）の僧を招いて、200回忌の供養を実施した。
  - この地域では昭和62年に水道配管工事を行った際、多くの白骨が出土し、見聞した人達は改めて、島原大変時の被害の大きさを思い知らされたという。
- （参考文献：碑文が語る土砂災害と戦いの歴史 長崎県 NPO 法人長崎県治水砂防ボランティア協議会、島原大変二百回忌記念誌「たいへん」）

熊本県熊本市、宇城市位置図



### 【寛政大津波の概要】

- ・寛政4年（1792年）5月21日夜、島原半島の雲仙岳が噴火した。噴火後、普賢岳を震源にM6.4の地震が発生し、隣にある標高700メートルの眉山が崩壊した。
- ・崩壊時に約3億4,000万立方メートルに上る大量の土砂が島原城下を通過して有明海へと一気に流れ込み、波高10～20mの大津波が発生。対岸の熊本（肥後）に大きな被害を与えたうえ、折り返した津波が再び島原を襲った。



▲雲仙岳・眉山の巨大崩壊位置図

出典：独立行政法人 防災科学技術研究所 HP

- ・津波による死者は有明海全域で約1万5千人に上る（うち、約3分の1が熊本側）。
- ・島原半島の土石流被害が「島原大変」、熊本の津波被害が「肥後迷惑」と呼ばれる有史以来日本最大の火山災害となった。
- ・熊本県側の津波の遡上高は熊本市の河内、塩屋、近津付近で15～20メートルに達し、宇城市三角町大田尾では22.5メートルに達した。

### ■島原大変肥後迷惑の被害内容一覧

地域	死者	負傷者	死牛馬	田畑荒	流失船	流失家	流失・損害蔵
島原領	10,139人	601人	469頭	379町6反3畝21歩	582艘	3,347軒	308棟
天草	343人	x人	65頭	171町4反6畝	67艘	725軒	2棟
肥後3郡	4,653人	811人	131頭	2,130町9反5畝9歩	約1,000艘	2,252軒	x棟

出典：宇佐美龍夫 2003、『最新版日本被害地震総覧』、東京大学出版会

### 【津波が標高22.5メートルまで到達：宇城市三角町大田尾 津波境石】

- ・寛政大津波の規模を示す「津波境石」が宇城市三角町大田尾集落の旧街道筋に建てられている。
- ・石碑には、「津波境 寛政四子四月朔日戌刻 山本二十七金助立之」と記されている。
- ・石碑の位置から、津波が標高22.5メートルの高さまで到達したと推定される。
- ・また、有明海までは200メートルほど離れており、眉山崩壊によって生じた津波が、対岸の熊本側に与えた被害の大きさを実感できる場所である。



▲津波境石の位置（宇城市三角町大田尾）





▲大田尾集落の「津波境石」



▲津波境石から有明海方面を望む

### 【大津波の教訓を伝える石碑：熊本市河内町船津】

- ・熊本市河内町（旧河内村、白浜村、船津村）でも寛政大津波により約 500 人が死亡したとされる。
- ・大津波の教訓を伝える石碑（市の指定有形文化財）は同町の船津巖島神社近くにあり、幅 40 センチ、高さ 2 メートルほどの角柱 4 面にわたり碑文が刻まれている。
- ・熊本県内には寛政大津波に関する多くの供養塔、墓碑などがあるが、「教訓碑」はこの碑のみである。
- ・碑文には「後世に同じような津波が襲ったときは、すべてに優先し、高齢者や幼児を連れて直ちに避難しなければならない。迷わないように普段から逃げ道を確認しておくべきだ」と記されている。（碑文解説：肥後金石研究会）



▲津波教訓碑の位置（熊本市河内町船津）



▲写真左端の石碑が津波教訓碑



▲前面道路から見た位置  
(神社東参道入口にあったが道路改良で現在地に移設)



▲津波教訓碑の全景（寛政 7 年乙卯 10 月の建立）



### 【津波で本堂が流出、イチョウの木だけが残った蓮光寺：熊本市河内町船津】

- ・熊本市河内町の蓮光寺は、本堂が寛政大津波で流され、甚大な被害を受けたが、境内の大イチョウだけが流されずに残った。
- ・蓮光寺山門横の供養碑（市の指定有形文化財）には、「寛政四年壬子四月朔日死者七六五人…」と刻まれ、船津村、河内村、白浜村、近津村の四か村の罹災死者人数が 765 人であったことが記録されている。



▲蓮光寺位置（熊本市河内町船津）



▲蓮光寺山門横に供養碑がある



▲津波供養塔の全景



▲津波来襲時に残った大イチョウの木 11



▲津波供養塔の碑文